

2017年度・Water and Environment Technology Conference (WET) 2017 での EXCELLENT PAPER AWARD 受賞の報告

国際学会 Water and Environment Technology Conference (WET) 2017（主催：日本水環境学会）が平成 29 年 7 月 22 日、23 日に北海道大学札幌キャンパスで開催されました。この学会で、平成 25 年 12 月～平成 29 年 3 月まで水環境研究グループ水質チームに研究員として所属した武田文彦氏の下記論文について **EXCELLENT PAPER AWARD (最優秀論文賞)**の受賞が発表され、表彰されるとともに、記念講演が行われました。

この国際学会は、国内外の水環境研究に関係する産官学が一堂に集まる注目度の高い学会です。本国際学会では、日本水環境学会が刊行する「Journal of Water and Environment Technology」に連載された査読論文を対象とした EXCELLENT PAPER AWARD (最優秀論文賞:2名)を設けており、審査は産官学の代表者からなる選考委員により行われます。本賞の受賞は、本論文が水環境を取り巻く課題解決に向けた新たな科学的知見を提示する特に秀でた内容であったことから、高い評価が得られたものと考えられます。

タイトル

「Seasonal Variation in Ability of Wastewater Treatment for Reduction in Biological Effects Evaluated Based on Algal Growth」（邦題：藻類生長に基づき評価した下水処理による生物影響削減能力の季節変化）

Journal of Water and Environment Technology, Vol. 15 No.3, pp.96-105, 2017

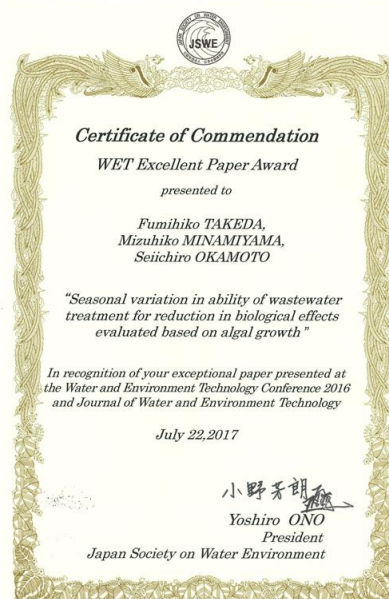
著者

武田文彦¹、南山瑞彦²、岡本誠一郎³

¹ 水環境研究グループ水質チーム 研究員（当時）² 水環境研究グループ水質チーム 上席研究員（当時）³ 国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究官（当時）

概要

本論文は、重点研究課題「生物応答手法を用いた下水処理水の評価と処理の高度化に関する研究」に基づく成果です。下水に対する藻類培養試験から、下水処理によって下水中に含まれる化学物質による藻類生長への影響を削減できること、その影響削減は冬季には低下することを明らかにしました。また、既存の手法を活用し、影響の見られた下水中に含まれる影響原因物質として界面活性剤等の複数の化学物質が推定されました。



賞状